

整理番号	19-55	事務事業名	心身障害児・者通所施設 運営補助事業	作成部署	保健福祉部福祉課	電話	内線812
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 上村 弘志	課長職名	小西 洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	平成10	根拠法令等	北広島市社会福祉施設運営費補助要綱				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	知的障がい者更生施設に通所する市民の安全確保と、施設の専門的機能の活用を図る。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	障害者福祉	(第4節)
	施策	社会参加の促進	(第2施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	北ひろしま福祉会に通所する障がい者と在宅の障がい児・者	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	施設の送迎事業を援助することにより、通所する知的障がい者の安全と介護者の負担軽減を図る。また、夏休み、冬休みの長期休暇時に障がい児・者の活動の場を確保するための事業を行い、閉じこもり予防と家族の負担軽減を図る。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	社会福祉法人北ひろしま福祉会が運営する通所更生施設の送迎事業費用の一部を助成。 夏休み、冬休みの在宅障がい児・者への屋外活動事業の実施。
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	2,733	2,701	2,701	2,701
	合計	2,733	2,701	2,701	2,701
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +	2,823	2,791	2,791	2,791	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	共栄通所定員数	30人	30人	19人	19人
	北広島デイセンター通所定員数	53人	53人	79人	79人
	とみがおか通所定員数		5人	5人	5人
	開放事業日数(夏休み、冬休み)	6日	6日	6日	6日
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	共栄通所利用者数	30人	30人	19人	19人
	北広島デイセンター通所利用者数	53人	53人	79人	79人
	とみがおか通所利用者数		5人	5人	5人
	開放事業参加者数	120人	90人	120人	120人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	利用者1人当たりコスト (総事業費 / 利用者総数)	13,906円	15,679円	12,515円	12,515円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	入所施設から地域での生活を進める脱施設化のなか、自宅から施設に通所する利用者の安全を確保するための送迎事業の重要性は高い。また、長期休暇時の障がい児者の活動の場として、施設機能を地域で有効利用する開放事業の必要性が高まっている。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	通所者の安全確保と、長期休暇時の活動の場づくりを支援する目的から適切である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	在宅生活を維持し日中活動の場として通所施設を利用する方の安全確保と施設機能を休暇中の活動の場として活用する開放事業のニーズは高まっている。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	送迎事業については、費用の一部補助であり、開放事業は施設機能を活用しニーズに合わせた事業を実施している。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	開放事業については、平成15年度から参加負担金を徴収している。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	通所者の安全が確保され、また、休暇中の活動が促進されている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	施設が持つ専門機能を地域で有効利用する施設開放事業も実施しており、効率的である。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	通所者の安全確保を図り、地域で施設機能を有効利用する事業であることから継続していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	19 - 55
------	---------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	心身障がい児・者通所施設運営補助事業		
交付先の名称及び代表者名	社会福祉法人北ひろしま福祉会	設立年	昭和24年
構成員(団体)数	利用人員、とみがおか91人、共栄114人、北広島デイセンター53人 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	知的障害者更生施設、知的障害者通所授産施設		
交付先団体等の活動内容	知的障害者更生施設、知的障害者通所授産施設		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	2,732	2,701	2,701	
	開放事業負担金	188	114	162	
	繰越金				
	収 入 合 計(B)	2,920	2,815	2,863	
支 出	通所送迎費用	8,228	8,170	8,724	
	開放事業	1,060	1,022	1,022	
	支 出 合 計(C)	9,288	9,192	9,746	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	-6,368	-6,377	-6,883	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		29 %	29 %	28 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		通所送迎(人件費、車両費)開放事業経費	通所送迎(人件費、車両費)開放事業経費	通所送迎(人件費、車両費)開放事業経費	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		9,288	9,192	9,746	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		29 %	29 %	28 %	
補助・交付金の算出根拠	通所送迎費用(人件費は臨時職員管理人賃金の2/3、車両費は定額)、開放事業経費は市提示額				